

さくらサイエンスプラン(SSP) 日越大学 初開催、ベトナム科学技術関係者招へいプログラム

科学技術振興機構

科学技術振興機構(JST)では、さくらサイエンスプラン(SSP)事業のプログラム実施に関わるアジアなどの科学技術関係者・教育関係者を日本に招へいし、日本の最先端の科学や科学技術行政などについて理解を深めていただいている。過去にASEAN行政官、インド大学関係者を招へいたことはあったが、今回初めてベトナムの大学関係者を中心に日本に招へいた。

ベトナムはSSPでの招へい人数が2018年度までに1912人に達する。全体で4番目に招へい者の多い国である。SSPのこれまでの参加者に対して19年5月に実施した再来日者調査では中国、タイに続いて3番目に多い、全体で11%の再来日者があった。ベトナムからの再来日者は留学目的が多い一方、研究目的はインド、ミャンマー、韓国、中国等と比較しても少ない傾向があった。そこで日、ベトナムの大学・研究機関間の研究交流を促進するべく、ベトナムの大学関係者に焦点をあてて、ハノイ工科大学やベトナム国家大学ハノイ校・ホーチミン校等、ベトナム国家大学ランキングの上位校に加えて、ベトナム分野の有力大学17校からの20人と、MOET、科学技術省(MOST)、および将来のSSP同窓会(さくらサイエンスクラブ)活動への支援を期待してベトナム科学技術協会(VUSTA)からなる25人の研究交流担当者、研究者、行政官を招へいた。日本とベトナムの関係では、日本・インド間のICTのような特別な焦点を当てた研究分野はないが、比較的交流の多い医学、農林水産、基礎化学、エネルギー工学の分野に焦点を当て、ベトナムからの参加者を推薦してもらい、日本での視察先も選んだ。招へい者の研究分野が複数に分かれるため、医学では日本医療研究開発機構(AMED)と量子科学技術研究開発機構、農林水産では農研機構、理研横浜キャンパスというように、極力、各招へい者の専門分野をカバーできるように視察した。訪問先の中ではベトナムと共同研究を行っている機関もあり、参加者ごとに興味のある観点を見つけては、各訪問先で活発に質疑応答がなされていた。



日越大学交流会にて集合写真



交流会での質疑応答

日越大学交流会を実施 招へい期間中の2月19日にはJST東京本部において日越大学交流会を開催した。日本側は31の大学、高専、研究機関を含む40の機関から59人が参加した。招へいたベトナムの17大学、また、日本からは時間の都合で

日程表	
2月16日	日本到着、オリエンテーション
2月17日	AM 筑波大学訪問
	PM 産業技術総合研究所(つくば)、農研機構訪問
2月18日	AM 日本医療研究開発機構(AMED)訪問
	PM 量子科学技術研究開発機構 訪問
2月19日	AM 日本科学未来館 見学
	PM 日越大学交流会(於:JST東京本部)
2月20日	AM 横浜国立大学 訪問
	PM 理研横浜キャンパス 訪問
2月21日	AM 東芝未来科学館 見学
	PM 東京大学(本郷)訪問、報告会(於:JST東京本部)
2月22日	離日

日越大学交流会参加大学・高专等

日本側		ベトナム側	
1	九州大学	1	Hanoi University of Science and Technology
2	九州工業大学	2	VNU, Ho Chi Mihn City, University of Science
3	電気通信大学	3	VNU University of Science, Vietnam National University, Hanoi
4	広島大学大学院	4	University of Da Nang, University of Science and Technology
5	香川大学	5	Ho Chi Mihn City University of Technology
6	山形大学	6	Vietnam National University of Agriculture
7	帝京大学	7	University of Medicine and Pharmacy at Ho Chi Mihn City
8	総合研究大学院大学	8	Electric Power University
9	大阪市立大学	9	The University of Danang
10	北陸先端科学技術大学院大学	10	National University of Civil Engineering
11	長岡技術科学大学	11	Hue University of Agriculture and Forestry, Hue University
12	釧路工業高等専門学校	12	University of Engineering and Technology, Vietnam National University, Hanoi
13	法政大学	13	Can Tho University
14	名古屋工業大学	14	Hanoi Medical University
15	福井大学	15	Nong Lam University
16	岡山大学	16	Thuyloi University
17	大阪大学	17	VNU Vietnam-Japan University
18	東京理科大学		
19	福山大学	26	熊本高等専門学校
20	福井工業大学	27	奈良先端科学技術大学院大学
21	京都工芸繊維大学	28	国立高等専門学校機構
22	東京大学	29	物質・材料研究機構
23	芝浦工業大学	30	和歌山大学
24	東京農工大学	31	国士館大学
25	小山工業高等専門学校		その他NPO、企業等で全40機関参加



福井照衆院議員
ベトナム、日本とも熱意あふれた。交流会となった。

発表数は制限されたが、ベトナムと同数の17の大学、高专から、各機関の特徴や強み、日越交流の現状や将来の展望について発表していただいた。

最初に「どうしたら日本とベトナムの共同研究を増やすことができるか」との問いかけがあり、それに対して、ベトナムは社会主義国家であり、国家の政策が大きな影響力を持つているため、「政策で日越の共同研究の重要性が位置づけられることが重要」また「研究者同士の直接交流を増やすことも重要」等の意見がベトナム側から寄せられた。

また、ベトナムの共同研究相手として、韓国は日本を凌駕してきており、奨学金や雇用研究費などの点で日本も検討すべき点があるとの議論がなされた。長岡技術科学大学や北陸先端科学技術大学院大学などでは、日本企業がインターンシップに協力したり、授業料の支援を行ったりしてベトナムとの交流促進に寄与しているという報告があったり、活発な議論がなされ、ベトナム、日本とも熱意あふれた。交流会となった。

プログラムの最終日となる2月21日午後には、JST東京本部において参加者による報告会が開催された。JST甲田理事の冒頭挨拶の後に、衆議院議員の福井照氏(日越友好議員連盟会長代理)より特別挨拶をいただいた。福井議員からは、現在流行中の新型コロナウイルスの健康を守るためにも日越の国際関係強化が大切で、将来の両国関係の発展に寄与することを願う旨、述べられた。

ベトナム参加者からは、大学3校とMOETから計4名が代表して成果報告を行った。また、駐日ベトナム大使館からフォン書記官、矢間外務省協定交渉官、新田文部科学省科学技術・学術戦略官、小川弘行公益社団法人ベトナム協会常務理事より、来賓挨拶をいただいた。

参加者は皆、親日的で、熱心にプログラムに取り組み、実施後のアンケートでも日程について高く満足したことが伺われた。更にMOETからは次回、プログラムに参加させた人の推薦までいただいた。科学技術関係者の招へいやSSPを活用しての日越交流の機会は大変重要であり、これをきっかけに両国のネットワークを一層強化することが期待される。